

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般講演
タイトル	在宅における看取りのパスの活用 ～Liverpool care pathway 日本語版在宅バージョンについて～
日時	平成 25 年 3 月 31 日 14 : 30～15 : 30
会場	第 6 会議室
座長	たんぼぼクリニック 院長 矢野 博文
演者	東芝病院 緩和ケア科 科長 茅根 義和先生
企画趣旨	<p>看取りのパスである Liverpool care pathway (LCP) は Dr. John Ellershaw (Marie Curie Center Liverpool) により 2003 年に提唱された看取りのクリティカル・パスである。LCP はチェック・リスト形式のパスで、患者を看取るまで、そして看取り後の治療とケアの手引きとなり、経過記録を支援することを目的として作られている。LCP を導入することによって看取りのケアの標準化が図られ、必要なケアがもれなく行われることができるようになる。LCP を日本でも導入することを目的に 2004 年より LCP を日本語に翻訳するワーキンググループを立ち上げ、EORTC guidelines に沿った翻訳作業および専門家（緩和ケア領域、サイコオンコロジー領域、在宅領域の医師および看護師合計 40 名）による内容の検討を経て 2009 年に LCP 日本語版を作成した。LCP 日本語版をリリース後、翻訳ワーキンググループは LCP 研究組織として LCP 日本語版の普及グループによる普及事業と研究グループによる LCP 日本語版に関わる研究事業を行っている。普及グループによるワークショップが 2009 年より継続的に行われているが、ワークショップ開催毎に LCP 日本語版の在宅での使用希望が普及グループに寄せられていた。LCP 日本語版は、LCP ver11 のうち、病院施設にて使用することを前提とした病院バージョンを底本として作成されているため、LCP 日本語版はそのまま在宅での看取りに使用することには適さないという問題があった。このようなニーズを受けて 2010 年より研究グループにおいて LCP 日本語版在宅バージョン（以下在宅バージョン）の開発作業が開始された。在宅バージョンは LCP 日本語版の基本構造を大きく変更することなく、LCP 日本語版の内容のうち在宅セッティングではすぐわな部分修正するかたちで作成され、2011 年秋には仮バージョンが作成された。これを在宅支援診療所および訪問看護ステーションにてパイロット試用を行い、その結果を受けて昨年 7 月に在宅バージョンがリリースされた。今回の講演では LCP 日本語版の紹介と在宅バージョンにおける変更点や特徴を紹介し、また看取りのパスを医療現場において使用することでどのような効果が期待できるかにつき説明する予定である。</p>